

春の星座への旅



星までどのくらいはなれているのか…

考えたことがありますか？

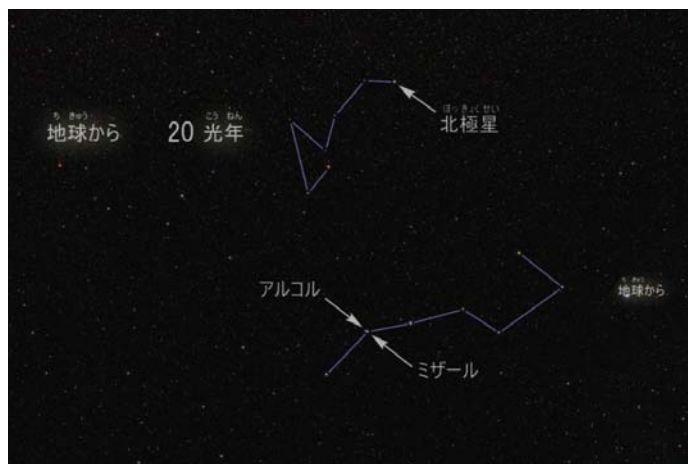
地球をとびだして
春の星座たちに
近づいてみましょう



次に本物の星空を見上げたとき
いつもとちがう何か…を
感じることができるかもしれません

春の星座への旅 (22分)

普段、何気なく眺めている星空。地球から見ると、星座を形作る星々は皆、天球という大きな丸天井に張り付いているようにしか見えません。星はあまりにも遠くにあるので、私たちはそこまでの距離を感じることができないのです。しかし、実際には、ひとつひとつの星までの距離は千差万別。とても遠い星から近い星まで様々です。この作品では、春の代表的な星座に近づいて、それぞれの星座を形作るひとつひとつの星が地球からどれくらい離れているのかを見ていきます。見終わったあと、本物の夜空を見上げれば、そこにはいつもと一味違った感覚の星空が広がっているかもしれません。



★ おおぐま座、こぐま座 (ミザール、アルコル、北極星)

おおぐま座の下半身からしっぽにかけて有名な北斗七星があります。ひしゃくの柄の先から2つ目の星がミザールです。良く見ると少し暗い星が寄り添っていて、これがアルコルです。

ミザールは連星同士が更に回りあって複雑な構造ですが、本コンテンツではシンプルな連星として描いています。ついでに北極星にも立ち寄ります。

★ うしかい座、りょうけん座 (アークトゥルス、コル・カロリ)

うしかい座のアークトゥルスは、見かけ上おとめ座のスピカ方向へ移動しているそうです。この2つの星は夫婦星(めおとぼし)などと呼ばれることもあるので寄り添って見えたなら夫婦円満ということでしょう。でもそれは数万年後のこと。

りょうけん座のコル・カロリは近くに明るい星が無いので比較的に見つけやすい星です。



★ しし座 (デネボラ、レグルス)

レグルスから放たれた光は人の一生分くらいの時間をかけて地球にたどり着きます。言い換えれば、おじいちゃん・おばあちゃんがこの星を見たとき、その様子は自分が生まれた頃のものだということです。ちょっと不思議ですよ。

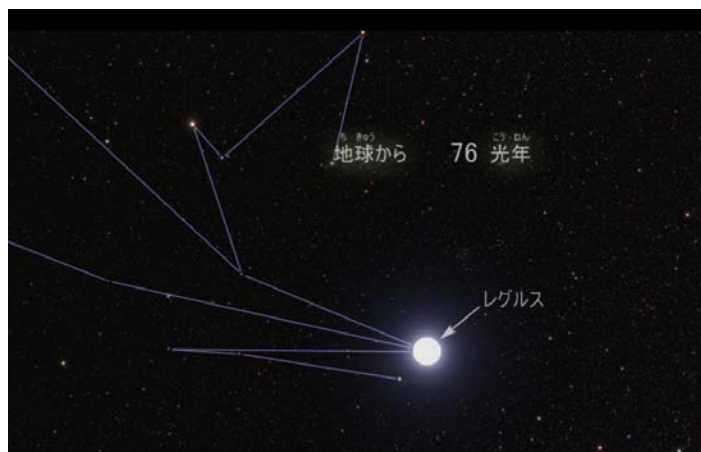
春の大三角形を構成する星・デネボラと一緒にしし座への旅をお楽しみください。

★ おとめ座、からす座、コップ座 (スピカ、アルキバ、アルケス)

おとめ座のスピカは望遠鏡でのぞくと1つの星のように見えますが、分光器で調べると連星であることがわかる分光連星です。

その周期は4日。青白く光る高温の星です。

ちょっとマイナーですが、からす座とコップ座の星にも寄り道してみましょう。



ナレーション：小山菜美 脚本・編集：鷲巢 亘 イラスト：塚田洋子 CG：NOBO